



附属総合ミュージアムで学生が手がける 展覧会「モノから覗く『モノ』がたり」を開催

博物館学芸員課程を履修する学生たちが、附属総合ミュージアムの所蔵品を使って企画、運営する展覧会「モノから覗く『モノ』がたり」が12月16日から4日間、開催されます。自前の展示場と資料を使った展覧会は、大学附属のミュージアムを持つ本学ならではのカリキュラムです。

テーマ：「モノから覗く『モノ』がたり」

開催日時：12月16日（火）～19日（金）10:00～16:00

会場：附属総合ミュージアム5階ギャラリー（入館無料）

附属総合ミュージアムでは、博物館学芸員課程を所管し、博物館概論や博物館展示論などの講義や実習を行っています。学生は、必要単位をそろえれば博物館学芸員の資格を取得することができます。ミュージアムは、近現代の生活文化資料約6万点を所蔵。中でも着物を中心とする「近代衣生活資料」9092点は、国の登録有形民俗文化財です。学生が手掛ける展覧会（館蔵資料展）は、実習の一環として毎年開催。ミュージアムが所蔵する衣・食・住の豊富な資料から、学生が統一テーマを設定し、展示を企画するものです。

今年は履修する20人が取り組みました。テーマは「モノから覗く『モノ』がたり」。小説やアニメに出てくるモノをテーマに、物語と現実の世界を交差させ、物語を覗くことができる衣服や生活用品、娯楽品など約30点を展示しています。モノから登場人物の日常生活を感じながら、新しい発見をしたり、昔を懐かしんだりしながら楽しんでいただける展示を目指しました。

例えば、虫食いのある「刺し子の風呂敷」。陽の目をみることのなさそうな收藏品ですが、ボロボロでくたびれていることが、芥川龍之介の小説「蜜柑」の世界に出てきそうだと紹介されています。また、縦型の「電話機」は、スタジオジブリのアニメ「となりのトトロ」で、サツキが同級生の家で借りたものとそっくりです。隣近所で電話を貸し借りしたり、交換手を介して連絡を取ったりしていた時代について学生が考察しています。文学部日本語日本文学科3年の小中輝歩さんは「展覧会を訪れた後、紹介された小説を読み返したり、アニメを再び鑑賞したりする時間が生まれるといいなと思います」と話しています。

この件に関する取材のお申込み、お問い合わせは武庫川女子大学広報室

Tel 0798-45-3533

E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp

へお願いします。



1920~30年代の蓄音機とレコード



戦後の没落貴族を描いた小説を思わせるスープ皿とスプーン



昭和時代の雪靴。大ヒット漫画にも登場？



交換手を通していた頃の電話機